

防除情報(病害虫情報 号外 第1号)

平成29年5月1日
神奈川県農業技術センター

平成29年度イネ縞葉枯病の発生予想と防除について

平成29年1月12日～2月21日に県内22地点の水田でヒメビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、22地点すべてでRSV保毒虫を確認し、平均保毒虫率は5.2%でした(図1)。

平成29年1月12日～2月3日に県内17地点の水田でヒメビウンカの越冬世代虫密度を吹き出し法により調査した結果、平均密度は41.9頭/9㎡であり、平年比「並」でした(図1)。

ヒメビウンカの越冬世代密度は平年並で、RSV保毒虫率の高い状態が継続していることから、本年の水稲作本田におけるイネ縞葉枯病発生量は、平年に比べてやや多くなると見込まれます。

[防除]

水稲初期生育期におけるヒメビウンカの水田飛来によるRSV感染と水田内での感染拡大を抑制するため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤(殺虫剤)を施用してください。

また、薬剤選択に際しては、ツマグロヨコバイにも適用のある薬剤を優先してください。

田植前および作期を通して、RSVの寄主植物やウンカ類生息場所となり得る水田周辺の雑草の除草を徹底してください。また、本田防除は、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期に、農業技術センターの病害虫情報を参考にヒメビウンカの発生状況を把握し、適期に防除を行ってください。

[防除薬剤]

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロヨコバイ適用
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱	あり
ソインターポフェルテラ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロ適用
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫7日前まで	3回	3kg/10a	あり
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a	あり

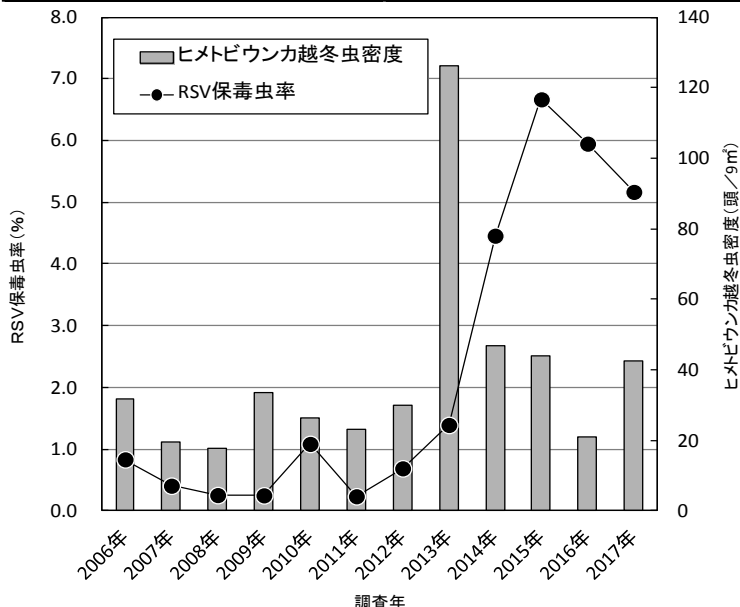


図1 ヒメビウンカ越冬世代のRSV保毒虫率と密度の経年推移

病害虫防除部 TEL0463-58-0333
インターネット
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4500002/>
○農業使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。